

---

# 僕らはカトレアを心に持った

侑妃

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕らはカトレアを心に持った

### 【Nコード】

N1367B

### 【作者名】

侑妃

### 【あらすじ】

幸せな王国ジット。リーフとアンナはジット王国のヘンドリーという街に住んでいた。ジット王国は戦争はないし、近隣の国とはうまくいっているという、平和な国だ。国民全員に笑顔があった。だが運命は実に残酷だ。ジット王国に、少しずつ少しずつ黒い影が近づいていたのだ。リーフとアンナはまた平和を手にするべく、黒い影に立ちはだかる。家族や友、大好きな皆の為に 僕達は戦うんだ、魔法使いになってね。

## プロローグ 僕らはあの時幸せだった（前書き）

この小説はファンタジー小説です。

ファンタジー小説が苦手だという方は、お引取り下さい。

## プロローグ 僕らはあの時幸せだった

此処、ジット王国はとても平和な国ものだ。

国王アシスは、自室の窓から街を見てそう思った。

街は、朝方だというのがやがやと賑やかなものだ。市場の方から威勢のいい声が聞こえる。それを聞いて、アシスの顔には笑みが浮かんだ。

午前6時に起き、窓を開けて街の様子を見、静かに微笑む。これは既に日課になっていた。

戦争は曾祖父の代から一切ない。近隣の国とも中々うまくいったものだ。国王自ら街に降り、様子を見ることもある。我が国は大変平和だ。

「コラーツ！リーフ、いい加減にしなさいッ！！」

これを聞いて笑みを濃くするのも日課だ。

所変わって、城のすぐ近くにあるヘンドリー横丁。

その一角で、プチ騒動が起こっていた。まあ、毎朝の事なんだが。

「リーフ、ねえリーフ！さっさと返しなさいったら！」

桃色のワンピースを着て、栗色の髪をしている小さな女の子が、木の上にいる茶色い髪をした少年に言った。木の上にいる少年　リーフという名前らしい　の手には真っ赤な林檎がある。

「へへん、やーだねっ！」

リーフが足をブラブラさせながら、舌をべっと出しながら言った。

「返してあげるわけないだろ？これくらいケチケチすんなよ、果物屋のアンナ・シューベルト！」

「何よ、リーフのくせに！」

アンナは言った。

「お母さんは見逃してるけどね、私はそうはいかないんだから！」

「アンナもおばさんの様に心を広く持てよなー・・・っと。」

リーフはそう言うなり、林檎を口に含んだ。それを見たアンナは、殆ど悲鳴に近い大きな声を出して言った。

「もう！またお店のモノ食べちゃって！！駄目だって言ってるのに！」

アンナは悔しそうに地団駄を踏んだ。

「今度こそ捕まえてやるんだからね、リーフ・ジエーン！」

アンナはそう言うなり、リーフが座っている木を揺すった。

周りの人達　ヘンドリーに住んでいる人達　といったら、それを微笑ましいと見ているのだった。そして、ある店の亭主は言う。

「リーフとアンナが騒いでるぞ。そろそろ開店しなきゃな。」

リーフとアンナは幼馴染だ。

リーフの家は果物農園を、アンナの家は果物屋をしていて、親の付き合いから知り合った。リーフとアンナは兄弟の様にいつも一緒に、その仲の良さはヘンドリーの人達公認、国王様でさえも認めている。もう2人とも12歳になるというのに、2人の間に下心はなく、『美しき兄弟愛』がいつも2人の間にあった。

リーフもアンナも、その周りの人達も、みんなみんな幸せだった。とっっても、とっってもね。

それなのにこんな事になるなんて、一体誰が考えただろう！今のこ

の幸せな、平和な国に、誰がこんな事が起こるなんて想像できただ  
るっ！

黒い影は、そろそろとジツトに近づいてきていた。

## プロローグ 僕らはあの時幸せだった（後書き）

+ 後書きという名の反省会

読んでくださって有難う御座います。いかがでしたか？

カトレアの花言葉は「魔力」なんです。結構気に入ってます。これからもよろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1367b/>

---

僕らはカトレアを心に持った

2010年10月8日15時33分発行